

実施計画評価の実施要領

1. 評価対象

9の重点課題の実施機関が作成した平成28年度～平成31年度（本格実施フェーズ）の研究開発・アプリケーション開発の実施計画を評価対象とする。

2. 評価の流れ

(1) ヒアリング（平成27年10月15日(木)、10月23日(金)、11月2日(月)）

- 各重点課題の実施機関へのヒアリングを行う。（実施機関からの説明（30分）及び質疑応答（15分））
- ポスト「京」重点課題推進WGの委員は、各重点課題の実施計画について評価基準に基づき評価を行い、採点及び改善点の指摘を評価記入シートに記入する。
- 事務局（文部科学省）にて、評価記入シートのとりまとめを行い、とりまとめ結果をWGおよび実施機関に送付する。
- 実施機関はとりまとめ結果を受けて、実施計画の改訂を適宜行う。
- 特段の確認がさらに必要な場合、追加のヒアリングを実施することがありうる。

(2) 平成28年度の資源配分の方針の検討（日時未定 平成28年1月）

- ヒアリングの評価を参照しつつ、平成28年度の各重点課題の計算資源・予算の配分の方針について検討する。
- WGにおける検討結果も踏まえて、事務局は平成28年度の資源配分をWGおよび実施機関に送付する。

3. 評価の観点

<重点課題に求められる要件>

9の重点課題の選定における方針であるとともに、事業の推進時において尊重すべき要件。（評価項目(1)-1）

(1) 社会的・国家的見地から高い意義があるか。【必要性の観点】

- 我が国を取り巻く社会的・科学的課題の解決に貢献できること。

(2) 世界を先導する成果の創出が期待できるか【有効性の観点】

- ① 科学的なブレークスルーや我が国の産業・経済への波及効果が期待されること。
- ② 成果創出に向けて、計算科学者や理論科学者に加え、計算機科学者、応用

数学者，社会学者，実験・観測科学者，産業界や自治体等の関係者等が連携・協調した開発体制を構築できる見通しがあること。

(3) ポスト「京」の戦略的な活用が期待できる課題か。【戦略的活用の観点】

- ①ポスト「京」により初めて可能となる超大規模計算・データ解析であること。
- ②俯瞰的にみてポスト「京」の十分な活用が期待できること。
- ③ポスト「京」の利用による投資効果が明確であること。

<HPCI 戦略プログラムへの評価を踏まえた対応>

本事業の前身事業である「HPCI 戦略プログラム」に対する平成 27 年度行政事業レビュー公開プロセスでは重点課題に関連するものとして、以下の指摘を受けたところ。

- 成果指標の達成度合いが不明瞭なため、個々の研究開発目標の評価・分析について工夫すべき（評価項目(2)-1)
- 国民に対し、コストパフォーマンスを含めた事業成果について分かりやすく表示すること（評価項目(2)-1)
- 官と民の適切な役割分担により、民の活力を活用すべき（評価項目(3)-1)

<CSTI における平成 26 年度評価を踏まえた対応>

平成 26 年度に行われた CSTI による「ポスト「京」の開発」の評価では、「応用を図るべき重点課題分野の選定が行われたが、スーパーコンピュータ開発の意義・必要性や有効性を広く一般国民も実感できるよう、アウトカムの更なる具体化、明確化が望まれる」と指摘を受けたところ。（評価項目(2)-1）

<コデザインについて>

本事業では、ポスト「京」開発主体（理化学研究所）と実施機関は、重点課題ごとにターゲットアプリケーションとその性能目標を設定し、システム及びアプリケーション開発を協調的に推進する。また、実施機関は、ターゲットアプリケーションにおけるコデザインのノウハウを踏まえ、ポスト「京」開発主体と情報交換をしつつ、それ以外のアプリケーションについても開発を実施する。コデザインを進めるための体制の構築や具体的な取組内容について、評価する。（評価項目(5)-1）

4. 評価項目及び評価基準

(1) 重点課題に求められる要件への合致性の評価【配点5点】

● 評価項目(1)－1【配点5点】

実施計画(実施内容、研究開発内容、実施体制等)が、重点課題に求められる要件に適合していること。

(2) 研究開発内容に関する評価【配点25点】

● 評価項目(2)－1【配点5点】

全体目標及び期待される成果が、明確かつ具体的であり、また、実現性・妥当性があること。

● 評価項目(2)－2【配点5点】

全体目標及び期待される成果の実現のために必要とする「京」やポスト「京」の計算資源量が、明確かつ具体的であり、また、妥当性があること。

● 評価項目(2)－3【配点5点】

所要経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれること。

● 評価項目(2)－4【配点5点】

課題全体におけるサブ課題の構成や連携が妥当であること。

● 評価項目(2)－5【配点5点】

各サブ課題の定性的・定量的な目標(年間目標、中間目標及び最終目標)及び期待される成果が、明確かつ具体的であり、また、実現性・妥当性があること。

(3) 実施体制の評価【配点10点】

● 評価項目(3)－1【配点5点】

代表機関、分担機関、協力機関の役割分担が明確かつ妥当であるとともに、課題責任者やサブ課題責任者が事業を推進し、各参画者が目標の達成に寄与する体制となっていること。

● 評価項目（3）－2【配点5点】

（重点課題間や他プロジェクトとの連携及び連携における役割分担が妥当であること。）

（4）留意事項への対応の評価【配点5点】

● 評価項目（4）－1【配点5点】

（留意事項を踏まえ検討が行われ、実施計画へ反映されていること。）

（5）その他

● 評価項目（5）－1【配点5点】

（政策的重要性や特筆すべき事項等について評価。
・ コデザインを進めるための体制の構築や具体的な取組内容

（評価基準）

各評価項目について次の5段階の評価・配点を行う。

<評価>

- 5：非常に優れている
- 4：優れている
- 3：妥当である
- 2：条件付きで妥当である
- 1：改善が求められる